

個人株主の皆さまにお届けする情報誌

NYK

plus

NYK プラス
vol.19 2016 Spring

【特集】モノ運び最前線・RORO船で運ぶ

生活を支える国内海上輸送





会議室で出されるコーヒー。フェアトレード製品である事を示すカードを添えています

日本で販売されているフェアトレード製品



Photo:Sean Hawkey



Photo:Stefan Lechner

コーヒー生産国のほとんどは、開発途上国といわれる国々です

国際フェアトレード認証ラベル

原料の生産から輸入、製造、完成までのすべての過程で国際フェアトレード基準が守られている製品に、このマークが貼られています。この製品を購入することは、開発途上国の生産者の労働条件と生活状況の改善、環境保全の促進につながります。



Partner Interview

特定非営利活動法人
フェアトレード・ラベル・
ジャパン

マーケティングマネージャー
松井 譲治さん



フェアトレードは、世界各国のムーブメントとして広がりはじめています。日本郵船でも勉強会を実施し、日々の業務と照らし合わせて理解を深めて頂きました。コーヒー、カカオなど、日常生活に欠かせないものを作る世界中の人々と、私達はつながっています。開発途上国で生産する方々が、品質の良いものを作り続けるために、良好な労働環境や生活水準が保証され、自然環境にも配慮した持続可能な取引のサイクルを作ることが重要だと思えます。

○フェアトレード・ラベル・ジャパン (FLJ) とは…
国際フェアトレードラベル機構 (Fairtrade International) の構成メンバーとして、日本国内において、国際フェアトレード認証ラベルのライセンス事業、製品認証事業、フェアトレードの教育啓発活動などを行う NPO 法人。

活動を知っていただくきっかけとなることを期待しています。
当社グループは今後も、地球社会とともに生きる企業市民として、積極的に社会に貢献してまいります。

Corporate Citizenship 日本郵船の社会貢献活動

身近なところから 世界へつながる社会貢献

社内コーヒーをフェアトレード製品に切り替え

日本郵船は来客用会議室でお客様にご提供するコーヒーと社内喫茶室のコーヒー・紅茶をフェアトレード製品へ切り替えています。

フェアトレードとは、開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「貿易のしくみ」です。

これまでも当社は、チョコレートや手工芸品など開発途上国の生活向上につながる製品を社員向けに販売する機会を設けてきました。

今回、身近なコーヒー・紅茶をフェアトレード製品へ切り替えることで、社員がグローバルな社会課題への関心を高め、来社されるお客さまにもこの



生活を支える国内 海上輸送

有明埠頭に着岸する「しゅり」



RO-RO船 で運ぶ



私たちが普段使っているシャンプー、洗剤、トイレトペーパーなどの日用雑貨品や、スーパーマーケットに並ぶ野菜や飲料水。国内の生産地から消費地までは鉄道、飛行機、トラックなどあらゆる乗り物で運ばれますが、船も代表的な輸送手段です。日本郵船グループで国内海上輸送事業を手掛ける近海郵船は、北は北海道、南は沖縄まで船を運航しています。各地に物資を届けることで私たちの生活を支えています。

北海道から沖縄まであらゆるモノを輸送

「RORO（ローロー）船」。あまり聞きなじみのない種類の船ですが、近海郵船はこの「RORO船」を使ひ、全国各地へあらゆるものを輸送しています。ROROとは「Roll On Roll Off」の頭文字をとったもの。この船はフェリーのように、クレーンを使わなくても貨物を船に積み込むことができるのが特徴です。フェリーもRORO船もトラックやトレーラーを運んでいます。が、フェリーは多くの旅客も運んでいるのに対し、RORO船は貨物の輸送に特化しています。

港してから出港までの停泊時間が4時間間もなく、その間に荷役を終えなければならぬケースもあります。RORO船を使うことで、限られた時間内で効率良く積み降ろしを行っています。さて貨物を積み込んだ船は果たしてどこに行くのか。近海郵船は北海道・苫小牧と茨城県・常陸那珂間、苫小牧と福井県・敦賀間、東京および大阪と沖縄県・那覇間を定期運航しています。北海道や沖縄は、本州と陸続きではないため、船での物資輸送がライフラインです。近海郵船はこうした地域に日用雑貨品から食品・飲料水、ロール紙（新聞紙になる巨大なロール状の紙）などさまざまなものを届けています。観光客が増える沖縄の冬や北海道の夏に

午後4時の東京港。近海郵船が運航するRORO船「しゅり」が有明埠頭に着岸しています。船と岸壁を結ぶのは船の側面や船尾についているランブウエイ橋です。ランブウエイをつたい、貨物を積んだトレーラーや販売用の中古車などが次々と自走して港から船に乗り込んでいきます。船内は立体駐車場のようになっています。熟練ドライバーが巧みにトレーラーを操り、船内の決められたスペースにびたりと駐車させます。車両と車両の間はわずか数十センチ。できるだけ空きスペースがないよ

はレンタカーとして使われる乗用車も運ばれています。

北海道から関東・関西地方へは農産物や食品などが運ばれています。北海道の広大な土地で作られたじゃがいもや玉ねぎに加えて、牛乳やチーズなどの乳製品も私たちの食卓には欠かせない存在です。沖縄からは泡盛や、最近では



販売される中古車が自走して船内の決められたスペースへ

うに、効率良く積み、停められたトレーラーや自動車は専用の資材で固縛していきます。

RORO船の大きなメリットは荷役を早く行えること。一般的なクレーンを使った荷役では1時間に20個程度の貨物を取り扱うのが限界です。一方、RORO荷役では既に貨物と車両が一体化しているため、そのまま自走して船に乗り込み、貨物を固定するだけです。そのためクレーンを使った荷役に比べて短時間で多くの貨物を積みつけることができます。場合によっては船が入

お彼岸やお盆にお供えする花が運ばれています。これまでは飛行機で輸送されることが多かったのですが、船が使われるケースも増えています。

野菜や乳製品、花の輸送ではただ港から港まで運ぶだけでなく、一工夫しています。農産物は常温で輸送する時間帯が経つにつれて腐ったり、花も急激な温度変化があれば枯れてしまう場合もあります。それを防ぐため船内には冷凍・冷蔵電源を搭載しており、プラス20度からマイナス25度まで一定の温度環境で輸送することが可能な設備を整えています。それぞれの品目に適した温度で輸送することで、品質を落とすことなく消費地へ届けています。

国内各地へモノを運ぶにはトラック



トレーラーが動かないよう
特殊な資材でしっかり固縛する



船内にびっしり積みつけられた乗用車



トレーラーの車間はわずかに数十センチ



沖縄から東京まで運ばれたトレーラー



「北斗」の名を受け継いだ
新造船「ほくと」



トラクターヘッドをコンテナが載った
シャシーに接続させ、いざ出発

走っています。新造船にはさまざま
な工夫が施されています。例え
ば、苫小牧―敦賀間の輸送では日
本海を走りますが、冬の日本海は
沖からの強い季節風が吹くため波
が高くなり、荒れやすい。船が大
きく揺れてしまうと車両が傾き、
大事な貨物にダメージが出てしま
う可能性もあります。そのため新
しい船はこれまでの船と比べて一
回り大きくし、波の影響を受けに
くくしています。これに加えて、
船底近くの左右両側に取り付け
られている翼のような形をした
「フィンスタビライザー」も大型化
したことで、安定かつ安全な運
航を実現しています。

安全運航の実現へ新造船に工夫

や鉄道、飛行機などあらゆる手段があり
ますが、最近特に船による輸送が
注目を浴びています。船は飛行機や鉄
道などに比べて一回に大量のモノを運
ぶことができ、トラックに比べて貨物輸
送時に発生する二酸化炭素量も少ない
からです。RORO船は環境に優しい
輸送モードとなっています。

こうした船による国内輸送を手掛
けている近海郵船は、長い歴史
をもっています。同社は不正12年4
月、日本郵船から分離する形で設立さ
れました。当時は国内輸送だけでなく、

日本と外国との間にも船を運航して
おり、関東大震災や金融恐慌などのさ
まざまな困難を乗り越え、昭和10年か
ら14年にかけては日本郵船、大阪商船
(現・商船三井)に次ぐ国内3位の定
期船会社へ成長しました。しかしその
後は、日中戦争や日独伊三国同盟の調
印に伴うアメリカ、イギリス、オラン
ダなどによる経済封鎖に直面し、海外
との貿易が減少しました。このような
環境下で昭和14年に再び日本郵船に
合併されました。

終戦後の昭和24年7月、社名と社旗
を受け継ぎ、新たな近海郵船が設立さ

れました。そして昭和45年4月8日、
近海郵船初となる多目的RORO船
「北斗丸」が就航しました。当時は大阪
と苫小牧との間を約50時間かけて走
り、物資の輸送を行いました。「北斗丸」
以降、近海郵船の国内輸送ではRORO
船が最も使われる船となりました。

「北斗」という名は現在にも受け継
がれています。昨年完成した新たなR
ORO船3隻のうちの1隻は「ほくと」
と名付けられました。

この新しいRORO船は近海郵船
にとって13年ぶりの新造船となりま
した。現在は苫小牧―敦賀間を毎日



IoT関連のプロジェクトの件数が増えています



船速や燃費など性能データも表示できるように



デスクでも社内外や運航の現場と頻繁にやりとり

現場の近くで研究開発、 先進技術生み出す

当社グループの技術研究開発会社として2004年に発足した(株)MTIは、船舶と物流に関する技術開発で数々の先進的な成果を挙げてきました。最近では船舶の運航データ解析などのソフト開発、燃料消費量の少ない船舶の開発、最適運航管理などに取り組んでいます。

(株)MTIの船舶技術部門で部門長を務める安藤さんは今、船舶の運航データ解析に関する仕事に特に力を入れていきます。情報技術の進歩によって、運航中の船舶から得られるデータがかつてと比べて大幅に増え、そのデータを解析することで省エネ運航や安全運航に生かすことができるようになりました。

「船舶ビッグデータやIoT(インターネット・オブ・シングス)に関連したプロジェクトが増え、その活動に割く時間

が今は多くなっています」と安藤さん。当社グループが現在推進している運航ビッグデータ活用プロジェクトでは、資源や原材料を運ぶ船舶の運航データを活用して運航効率の改善を図る活動などに取り組む安藤さんはその中心メンバーを務めています。

船舶に関する技術を開発する研究機関は他にもありますが、(株)MTIは船舶を運航するユーザーの視点で技術開発に取り組んでいることが特徴です。「研究開発の活動は、一般的に現場や営業担当者の仕事とは離れています。MTIにいと実業と一緒に研究開発に取り組むことができ、とてもやりがいがあります」。現場の生の声に応える問題解決策を提供し、現場からのフィードバックをさらなる改善に生かしています。



安藤英幸さん

株式会社MTI
船舶技術部門 部門長

船舶モニタリングシステムで最適運航

日本郵船と当社グループの技術研究開発会社、(株)MTIは、航海中の船舶の状態を海陸間で協力しながら監視するシステム「SIMS」を開発し、省エネと定時性の確保を同時に可能とする最適運航に役立っています。

航海中のデータを解析

当社は(株)MTIと協力し、航海中のさまざまなデータを本船と陸上の両方でモニタリングするシステム「SIMS (Ship Information Management System)」を開発しました。

船舶がひとたび出港すれば、船上での判断方法や対応策を定めたマニュアルのほかには、乗組員の経験や勘に頼らざるを得ませんでした。「SIMS」は航海中の船舶のさまざまなデータを本船と陸上の両方で

モニタリングし、最適運航に活用するためのシステムです。

これまでは、海陸間の情報伝達手段は陸上と比べて格段に限られていました。例えば船舶の運航状況は、毎日船舶から陸上のオフィスに「ヌーンレポート」という文書で送られてきましたが、その頻度は1日に1回だけでした。

ところが昨今は船舶にも情報通信の技術革新の波が押し寄せており、船舶通信に使用

される衛星回線がかつてと比べ大容量、高速化し、さまざまなことに応用できるようになりました。

「SIMS」は技術革新が進む船舶情報通信を活用し、船舶の運航状態や燃費に関するデータを、1時間に1回の頻度で陸上のデータサーバーに自動送信して、大量の情報を海陸間でタイムリーに共有します。このシステムが導入されたコンテナ船では、航海中のデータ解析により運航や配船の効率化を実現し、約10%の

省エネ効果を得ることができました。データはメンテナンス計画や船型改良にも役立てられており、さらにさまざまな種類の船舶に搭載し、船舶ビッグデータ収集の基盤として活用しています。

「SIMS」は昨年12月、環境負荷の低減に配慮した優れた製品・サービスを表彰する、第12回エコプロダクツ大賞の国土交通大臣賞を受賞しました。その他にも日本航海学会航海功績賞や地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受賞する

など、省エネ運航につながる新しい技術として期待されています。

SIMSの概念図



*ウェザールーティング=気象を考慮した最適航路選定



第12回 エコプロダクツ大賞 表彰式

左から、(株)MTI 代表取締役社長 五十嵐誠、国土交通大臣政務官 江島潔氏、当社専務経営委員 田中康夫

● 2015年11月～2016年4月 ●

■ 木材チップ専用船の長期輸送契約を締結

当社は北越紀州製紙(株)と木材チップ専用船1隻の長期輸送契約を締結しました。この契約には(株)大島造船所で建造される2018年竣工予定の430万立方フィート型木材チップ専用船が投入され、省エネ性能向上のため、本船には最新鋭のエコ設計と電子制御エンジンを採用します。当社は現在、北越紀州製紙(株)の木材チップ輸送でトップシェアを確保しており、同社と計6隻の長期輸送契約を締結しています。(2016年1月)

■ 最新鋭14,000TEU型コンテナ船「NYK BLUE JAY」が竣工

14,000TEU型コンテナ船シリーズ1番船の「NYK BLUE JAY」が2月22日に竣工しました。本船は機関室スペースを最小に抑え、積載効率を一層高めた船型を採用しています。また主機には世界初Dual Ratingシステム(特許出願中)を装備し、二酸化炭素排出量および燃料消費量を大幅に抑えることが可能です。今後は運航に関する諸データを本船から収集・蓄積し、ジャパン マリンユナイテッド(株)、(株)MTIとの共同研究でビッグデータの解析を行い、さらなる省エネ運航に生かしていきます。(2016年2月)

■ 「日本郵船氷川丸」が重要文化財指定へ

当社が所有し、横浜市の山下公園に係留している「日本郵船氷川丸」が、3月11日に開催された文化審議会文化財分科会の答申を受け、重要文化財の指定を受ける運びとなりました。社会・経済史上における役割や造船・工芸技術上の価値が評価されました。海上で保存されている船舶としては、初の重要文化財指定となります。(2016年3月)



■ 「クリスタル ヨット クラブ」が「ザ・クルーズクラブ東京」としてリニューアル

当社が客船事業の一環として展開する「クリスタル ヨット クラブ」が、4月1日に「ザ・クルーズクラブ東京」としてリニューアルオープンしました。新たな名称である「ザ・クルーズクラブ東京」には、唯一無二の存在 (THE)、お客さま同士の距離を縮める親密な空気感 (CRUISE CLUB)、これぞ東京という体験をお届けする場所 (TOKYO) の意味を込め、魅力的なサービスを提供していきます。(2016年4月)



■ CDPの「気候変動情報開示先進企業」に4年連続で選定

当社は、企業の温室効果ガス排出量や気候変動等に関する取り組みの情報を収集、評価している国際非営利団体CDPにより、気候変動情報開示に優れた企業として「クライメート・ディスクロージャー・リーダーシップ・インデックス (CDLI)」に4年連続で選定されました。日本企業500社を対象として実施される調査において、回答企業のうち上位10%以内のスコアを獲得するのが選定要件ですが、当社は今回満点での選出となりました。当社は国内外のグループ会社を対象に356の事業所、約800隻の運航船で環境負荷データを集計しています。(2015年11月)

■ 最新鋭の冷凍コンテナ5,500本を新規調達

当社は、最新鋭モデルの40フィート冷凍コンテナ5,500本の新規調達を決定し、2015年11月より本格的な納入が開始されました。5,500本のうち700本は、酸素濃度や二酸化炭素などの空気成分をコントロールするControlled Atmosphere (CA) 機能を併せ持ったコンテナで、葉物野菜や果物をはじめとした貯蔵環境に敏感な生鮮食品を新鮮な状態のまま輸送することが可能です。(2015年11月)

■ 日本とフィリピンの商船学校で短期交換留学を実現

当社がフィリピンで運営する商船大学NYK-TDG Maritime Academy (以下NTMA) は日本の商船高等専門学校と短期留学プログラムを実施しました。これは当社の取り組みである「郵船みらいプロジェクト」の一環として計画されたもので、広島商船高等専門学校と弓削商船高等専門学校(愛媛県)から計5名の学生がNTMAへ、NTMAの学生10名が広島商船高等専門学校へ留学しました。当社は今後も、未来を担う世代にグローバルな視野を持ち、船員という職業に関心を持ってもらえるよう、当プロジェクトを継続していきます。(2015年11月)

■ 上海で新たな多目的完成車物流センターをオープン

当社グループ会社のNYK Automotive Logistics (China) Co., Ltd.は、世界最大の自動車市場である中国で、完成車物流においてますます需要が高まっている付加価値サービスを提供するため、Vehicle Processing Center(多目的完成車物流センター、以下VPC)を2015年12月に上海市にオープンしました。今回設立したVPCは、従来の保管、通関、PDI(納車前検査・整備・部品補給)などのサービスに加え、新たに板金・塗装、修繕など幅広い付加価値サービスを提供していきます。また、屋上全域に当社グループ会社の郵船商事(株)によるソーラーパネルを設置、自動洗車設備でも洗車排水リサイクル装置を採用しています。(2015年12月)





NYKのある街◆◆◆

Kobe 神戸 日本



神戸ポートタワーは神戸港のシンボルとして広く知られている

異国情緒あふれる美しい港町、神戸。神戸港は、古くは「大輪田泊」と呼ばれ、国際貿易の拠点として中国大陸や朝鮮半島の港と交流し、発展してきました。2017年には開港150周年を迎えます。

神戸港は日本のほぼ中心に位置し、多くの国際定期航路網を持っています。また、西日本を中心とした国内諸港と内航航路網で結ばれているほか、クルーズ客船の発着港としてもにぎわいを見せています。

旧居留地に現存する歴史的建造物として有名な神戸郵船ビルは、旧日本郵船神戸支店として1918年に建てられました。神戸大空襲で一部焼失しましたが、1994年に施した耐震補強工事によって、阪神・淡路大震災時は軽微な被害で乗り越えました。このリフォームは、第5回BELCA賞*を受賞しています。



神戸郵船ビル

*BELCA賞…わが国におけるビルのロングライフ化に寄与することを目的として、公益社団法人ロングライフビル推進協会が表彰する建築賞。長期にわたる適切な維持保全や、優れた改修を実施した既存の建築物の中から、特に優秀な建築物の関係者を表彰している。

海事用語 AtoZ

本誌の中でご紹介した記事の中から、わかりにくい専門用語を解説します。

【シャーシ】〈しゃーし〉

→8ページ

コンテナを陸上輸送する際に載せる台車のこと。シャーシには車輪がついているが、エンジンは搭載されていないため自走はできない。このためトラクターヘッドと呼ばれる牽引車をシャーシと連結して運ぶ。シャーシの四隅にはツイストロックと呼ばれるコンテナを固縛する装置がついており、コンテナとシャーシを連結することで移動中もコンテナが倒れることなく安全な輸送を実現している。車輪が2組ある2軸シャーシと3組ある3軸シャーシがあり、3軸シャーシの方がより重い貨物を収納したコンテナを運ぶことができる。

【フィンスタビライザー】〈ふいんすたびらいざー〉

→8ページ

船底近くの左右両側に取り付けられている翼のような形をした金属板のこと。船の揺れを和らげるための装置で、前方からの水の流れを利用して横揺れに合わせて翼の角度を変えて、揺れを打ち消すことができる。客船やカーフェリーなどを中心に多くの船で採用されており、揺れの少ない快適な船旅を実現する。フィンスタビライザーを初めて開発したのは日本人。三菱造船（現・三菱重工業（株））の元良信太郎氏が発明し、1923年に対馬商船の「睦丸」に世界で最初に装備された。

【Dual Ratingシステム】〈てゅあるれーていんぐしすてむ〉

→14ページ

船舶のエンジンは船ごとに出力が異なり、その船に最適な出力に最初から設定されている。コンテナ船は通常、高速運航時に最も燃費が良くなるような出力設定になっている。ところが最近ではコンテナ船が減速運航を行うケースがあり、高速用に最適化されたエンジンでは逆に効率が悪くなる点が悩みだった。この問題を解決するために生み出されたのが、「Dual Ratingシステム」だ。高速時と減速時にそれぞれ最適な二つの出力レンジを任意に選択できる仕組み。これにより幅広い速力域で低燃費性能を発揮でき、二酸化炭素（CO₂）の排出も削減できる。

【リーファーコンテナ】〈りーふぁーこんてな〉

→裏表紙

内部温度を維持するために壁面に断熱材を用い冷凍機を装備したコンテナ。マイナス25℃から25℃の範囲で0.1℃単位で温度を設定できる。冷凍貨物や生鮮食品だけではなく、温度変化に敏感な貨物（フィルム、医薬品、電子部品、化学製品等）の輸送にも適している。ベンチレーター（換気口）を備え、その開度を調整することで新鮮な空気を供給することができる。海上輸送中は船上に設置された専用プラグから電力を供給する。なお、温度調節機能が付いていない通常のコンテナはドライコンテナと呼ばれる。

■横浜・博多クルーズ ●
2016年10月1日(日) 横浜発～3日(日) 博多着 旅行代金 90,000～446,000円

■博多発着 舞鶴・隠岐クルーズ ●●
2016年10月3日(日) 博多発～6日(日) 博多着 旅行代金 141,000～708,000円

■博多ゆったりワンナイトクルーズ
2016年10月6日(日) 博多発～7日(日) 博多着 旅行代金 42,000～210,000円

■博多発着 済州島クルーズ
2016年10月11日(日) 博多発～13日(日) 博多着 旅行代金 64,000～316,000円

■博多・横浜クルーズ
2016年10月13日(日) 博多発～15日(日) 横浜着 旅行代金 84,000～420,000円

■みちのく紅葉クルーズ ●●
2016年10月29日(日) 横浜発～11月3日(日) 横浜着 旅行代金 195,000～1,048,000円

■秋の広島ワンナイトクルーズ
2016年11月9日(日) 広島発～10日(日) 広島着 旅行代金 45,000～223,000円

■広島・横浜クルーズ
2016年11月10日(日) 広島発～12日(日) 横浜着 旅行代金 90,000～446,000円

■紀州・なにわ 歴史浪漫クルーズ
2016年11月12日(日) 横浜発～16日(日) 横浜着 旅行代金 180,000～892,000円

■秋の神戸・名古屋ワンナイトクルーズC
2016年11月18日(日) 神戸発～19日(日) 名古屋着 旅行代金 42,000～210,000円

■南西諸島・台湾クルーズ ●●●
[Aコース] 2016年11月24日(日) 横浜発～12月7日(日) 横浜着
旅行代金 676,000～3,406,000円

[Cコース] 2016年11月25日(日) 神戸発～12月6日(日) 神戸着
旅行代金 572,000～2,882,000円

◆このほかに横浜～石垣、神戸～石垣、石垣～横浜、石垣～神戸のコースもございます。

■Xmas ザ・グレン・ミラーオーケストラ クルーズ ●
ゲスト: ザ・グレン・ミラーオーケストラ
2016年12月7日(日) 横浜発～9日(日) 横浜着 旅行代金 110,000～538,000円

■Xmas JAZZ ON ASUKA II ●
ゲスト: 山中千尋さん
2016年12月9日(日) 横浜発～11日(日) 横浜着 旅行代金 104,000～530,000円

■スペシャルクリスマス ON ASUKA II ●
ゲスト: 岩崎宏美さん
2016年12月17日(日) 神戸発～19日(日) 横浜着 旅行代金 101,000～479,000円

下記の各種キャンペーンや割引などが設定されています。

- =区間コース販売 区間乗船も可能です
- =連続乗船プラン(※) 連続乗船の場合、お得な特別代金を設定
- =早期申込割引(※) 早めのお申し込みがお得な、早期申込割引代金を設定
- =アスカクラブ20%特別割引(※) アスカクラブ会員の方は20%割引となります。
- =フリードリンクキャンペーン 夕食時のドリンク(アルコール飲料含む)を無料でサービス

(※)の割引を適用の場合、株主優待割引はご利用いただけません(連続乗船割引の1つ目のクルーズは利用可)。ご了承ください。その他のコース、割引などの詳細は下記までお問い合わせください

お問い合わせ  郵船クルーズ株式会社
0570-666-154
FAX 045-640-5366
http://www.asukacruise.co.jp/

飛鳥IIの新しい試み 地方発着クルーズが充実



神戸港と飛鳥II (撮影:中村庸夫)

2016年10月以降の飛鳥IIのクルーズは、春・夏に続き国内クルーズが充実。各地の旬をめぐるコースがそろいました。新しい試みとして、西日本から出発できるコースを豊富に設定。10月に「博多発着舞鶴・隠岐クルーズ」など博多乗船のクルーズを4コース、11月に「秋の広島ワンナイトクルーズ」「広島・横浜クルーズ」の広島乗船2コースを実施します。いずれも1泊～3泊と短めの日程なので、クルーズが初めての方にもおすすめです。「Xmas ザ・グレン・ミラーオーケストラクルーズ」や「Xmas JAZZ ON ASUKA II」「スペシャルクリスマス ON ASUKA II」など、今年のクリスマスクルーズは、音楽を満喫できる2泊クルーズがめじろ押しです。



NYKと コーヒーのはなし

カフェやコンビニコーヒーの増加で、コーヒーを飲む機会が増えているのではないのでしょうか。日本のコーヒー輸入量は世界第3位で、40カ国以上から輸入しています。コーヒー豆は、主にコンテナで海上輸送されています。内部を一定温度に保つリーファーコンテナを活用し、熱などでダメージを与えないよう、適切に温度管理をしながら運んでいるのです。



日本郵船